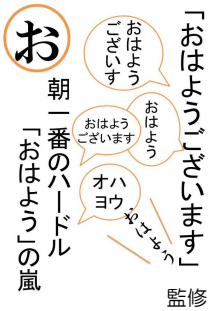
氷山モデルシート（WS009） Ver.2 +ガイド付き

課題になっている行動（気になる行動）

朝の挨拶で混乱してしまう



監修・文　水野敦之　　絵：宗貞由貴子

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
■ 様々な状況の変化 いつも同じではなく、状況の変化が多い ■ 影響を与える刺激や情報 言葉や刺激、情報が多い ■ 必要な支援がない 社会的な状況の個別化がされていない。 □その他	■ 表出コミュニケーションの特性：挨拶のタイミングがわからない ■ 社会性・対人関係の特性：朝の挨拶場面が複雑なハードルの高い社会的な場面になっている ■ 注意・注目の特性：刺激の多さに対応できない ■ 時間の整理統合の困難さ：状況を判断して、どのようなタイミングで挨拶していいかわからない	■ 習慣になっているものがある 決められて朝のルート、習慣、慣例があり、本人も習慣になっている ■ 自分流の気づき・考え方をもつ 自分で対応したり、回避したりすることが難しい ■ 過去に経験したこと学んだこと ■ 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること >>挨拶しないで注意されたり、挨拶をして注意されたりした経験。
■ 行動前の状況※ 複雑でわかりにくい朝の挨拶の場面	■ 関係理解（意味理解）・般化の困難さ：挨拶の意味の理解の困難さ	■ 行動後の状況・結果※ 理解できない、行動できない。 挨拶しないで注意され 挨拶しても注意され

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
他の支援者（先生）の協力は得られる １対１の教える場所、時間がある	文字、絵、図解の理解 ルートを教えると理解できる	一度成功すると安心し、繰り返すことができる。

支援計画

※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります

環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？
・支援者（先生）間で、挨拶を繰り返したり、その場で挨拶の仕方を指導したりしないことを共通認識する。	・挨拶の目標を本人にあわせて個別化する。 ・挨拶が複雑にならない時間帯やルートを設定する。	・挨拶の仕方や、対応について１対１の勉強の場面で教える。 ・朝の時間が苦しくなった時の回避の方法を伝える。

解説と支援の方向性について

挨拶は、いつ、誰に、どのように、どのくらいが、状況によって変わり、自閉症の人にとって曖昧でわかり難いものです。また自閉症の人は、情報処理の困難さがあります。複数の情報を処理したり、必要な情報だけに注目することが得意ではありません。自閉症の人にとって、学校や会社の朝の挨拶の渦は、大きなハードルになることがあります。挨拶について個別化した目標などの設定が必要になります。

※書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』（104～105頁）を参考に記入してください。　検索"自閉症　フレームワーク"